



入れるのだから、やってみたい」と背中を押してくれたのもあって、Jリーグへの申請を始めました。我々は、下部組織もしっかりしていて、愛鷹にグラウンドもある。そういう点で、Jリーグが掲げる理念に合致していたので、話ほとんどん拍子に進んでいきました。そして今年の9月に、無事J3のライセンスを取得することができました。

——目標が高い位置になり、選手たちの変化は感じられましたか？

J3を目指す中で、選手の意識はより高いものになったと思います。また、現役復帰した中山さんの影響はとて大きいです。素晴らしいキャリアの中で培ってきた経験談を聞いたり、サッカーに取り組む姿勢を見たりと、選手たちがそこから学びとるのは、計り知れないものだと思います。

——トップチームの将来について、どのようなビジョンを持っていますか？

まずは来年、静岡で4チーム目のJクラブになりたいと思います。静岡の東部地域は、昔からサッカーは弱いと言われてきました。ですが、優れた選手はたくさんいます。東部生まれの選手をしつかりと地元で育成して、この場所で夢を見

られる、そんな環境をつくっていきたいと思います。そして、スポーツを通して、東部を活性化していければいいな。その起爆剤となるためには、やはりチームが強くないといけません。勝ちを重ねることで、地域活性の火をつけていきたいですね。

——地域密着クラブとしての成果や理想は？

ホームゲームの時はゴール裏から、我々のスクールに通う子どもたちが、いつも大きな声で一生懸命応援してくれています。他のクラブでは見られない光景だと思えますし、本当に微笑ましく、選手たちも大きな力をもらっています。ありがたいことだと感じています。そして、その子どもたちが将来アスルクラロのトップチームでプレーしたいと思ってくれば、ここまでやってきた甲斐がありますよ。

また、トップチームが成長することで、地域への経済効果をもたらすことができると思います。試合観戦に訪れる人が増えてくれると、地元の交通機関、土産物屋さん、宿泊施設などを利用する人も増え、地元が元気になる。スタジアムの雰囲気も、さらに活気に溢れたものになります。

我々のクラブは、地元企業の業や住民の皆さんが多く関わって支えてくれます。将来、どんなカタゴリーで戦うことになっても、地域密着度だけは他のJクラブのどこにも負けたくないと思



思っています。

——では最後にアスルクラロの未来像について、山本代表の夢を聞かせてください。

まずは、高校年代を育てるユースチームをつくることです。そこでしっかりとした育成を行い、将来的にはトップチームで活躍する選手を多く輩出していきたいと考えています。時間はかかると思いますが、地元の選手たちを中心に、闘えるチームになりたい、それが一番の夢です。

近い未来で言うと、今年果たせなかつたトップチームのJ3昇格を来年度達成すること。そして、Jの舞台で活躍することによって、地元がさらに活気づき、「僕たちもクラブと一緒に闘っていいよ」、「新しいスタジアムをつくらう」と、色々なことがプラスの方向に進むことこそ、大きな価値があることだと思います。地域みんなで頑張って、将来「Jを目指して良かった」とクラブに関わるみんなが思えるように、これからも頑張っていきたいと思います。

CAPTAIN INTERVIEW

アスルクラロ沼津 キャプテンインタビュー

尾崎瑛一郎

「地元の人たちが愛してくれるチームに」



——J3を目指した今季、惜しくも目標は叶いませんでしたが、成果を感じた部分は？

吉田謙監督のもと、全員がひたむきに、一人ひとりがラグビーの「フォアザチーム」の精神のように、真面目に粘り強くというテーマを持って闘ってきました。夏には、少し緩んでしまい、苦しんだ時期もありましたが、またリーグ終盤にかけて完成度は高まったと感じるシーズンでした。

——チームの成長のためにキャプテンとして意識したことは？

ベストなのは、チーム全体の意識が自然と高まることだと思います。ですが、それは理想であって、誰かがチームの気を引き締めなければいけません。ゴンさん(中山雅史)が入ったことで、雰囲気はだいぶプラスに変わりましたが、自分もその次に年上です。言わなければいけないことは、しっかりと若手の選手たちに要求するようにしています。

本当に、みんな一生懸命取り組んでいます。だけど、一生懸命やるのは当たり前のこと。その中で個人個人が試行錯誤をしていくことで、チームのレベルは上がっていくと思います。逆にそれをさぼってしまおうと、これから先、上のカタゴリーには行けません。だからこそ、選手たちに求めるものは高くなっています。時には厳しいことを言うこともあります。

もちろん言うからには、自分自身も常に挑戦していく気持ちを持ち続けなければいけません。ゴンさんを見ていて、自分もいくつになっても現役でサッカーをやり続けたいという意欲も、さらに高まりました。

——今季は以前に比べて観客が増えました。

それは本当に嬉しいことです。選手にとつて、一人でも多くの人が見てくれていいる方が、モチベーションは上がりますし、毎日の練習から「もっと上手くなりたい」、「良いところをみせたい」という想いが出てきて、雰囲気も引き締まります。それが結果となって、来てくれた人たちに勝ちを見せることができる。選手と、応援してくれる人たちの、良い相乗効果だと思います。

——自身が考える地域密着の理想とは？

僕は、地元のみならず、このクラブを育ててもらうという感覚でいます。「僕たちが応援することで、アスルクラロの選手たちは頑張ることができるようだ」という想いを持って、試合を見に来てもらえると、本当に嬉しいです。もちろん、結果が伴わなければ厳しい意見も出てくると思います。でも、そういう言葉をもらって、選手たちはさらに成長することが出来ます。

地域の活性化のために、まだまだクラブとしてすべきことはたくさんあります。僕たち選手は、日中ほとんどが働いていて、様々な企業にいる地元の人と関わっています。その中で感じるのは、

色々な支援の形があるということ。金銭的なサポートはもちろん、働きながらサッカーをする僕たちのことを「心から応援したい」と言ってくれる人たちがいます。そういう想いをずっと大切にしていきたいと思っています。

——地域密着と口で言うのは簡単ですが、行動で示し、究極に突きつめていきたい。それが僕の信念です。

——それでは最後に、これからのチームの将来について、想いを聞かせてください。

もちろんJ3に昇格することが一番大事だと思います。でもそれだけではなく、地域の人たちから愛されるチームになっていきたい。言葉で伝えるのではなく、ピッチで闘う中で、その想いを感じてもらいたいと思います。最後までハードワークを惜しまない、懸命にプレーするという姿勢で僕たちは、応援してくれる人たちの想いに応えたい。来季もそういう気持ちを忘れずに、取り組んでいきたいと思っています。

